学校番号	３２７

令和８年度　数学科（国際文化科）

教科	数学	科目	総合数学	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	問題集　ステップアップノート数学Ⅰ＋A（啓林館）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・１年次で学んだ数学Ⅰ＋A の知識を復習することで基礎を固め、より応用的な問題にも取り組みます。
・まずは１年次に学んだ内容で忘れてしまっている部分を埋める→応用的な問題に取り組んでより深い理解を目指すことを繰り返し行います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
基本的な原理・法則を理解し、公式等を用いて適切に解答を導くことができる。
【思考力、判断力、表現力等】
解答に至るまでの過程が論理的で、適切に数式等を用いて表現できる。
常に批判的に考察し、よりよい解法を目指して考察し、改善していくことができる。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し、それらを活用する態度をもって問題に取り組める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学の基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，その知識を活用できている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身につけている。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けようとしている。	様々な課題に対し、常に論理的な思考を用い、数学的論拠に基づいて判断している。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	式の展開・因数分解 根号を含む式の計算 1次不等式	a:乗法公式や因数分解の公式などを用いて、式を目的に応じて変形することができる。 b: 一つの文字に着目したり、一つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をすることができる。 c: 具体的な事象の考察に式の展開や因数分解などを活用しようとしている。	定期テスト	定期テスト プリント	レポート 観察等
	場合の数と確率	集合と命題 場合の数、順列 組合せ 確率	a:確率の性質を理解し、さまざまな確率の求め方が分かる。また、求めることができる。 b:さまざまな試行の確率について考察することができる。 c:統計的な確率と数学的な確率の違いに興味・関心をもつ。さまざまな確率についての考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。	定期テスト	定期テスト プリント	レポート 観察等
	方程式・不等式	グラフと2次方程式 グラフと2次不等式	a: 不等式の意味や不等式の性質理解し、解を求めたりすることができる。 b: 不等式や方程式の問題を2次関数と関連付けて考察できる。 c: 数量の関係を不等式で表すことのよさを捉え、それらを具体的な事象の考察に活用しようとしている。	定期テスト	定期テスト プリント	レポート 観察等
2学期	2次関数	2次関数のグラフ 2次関数の最大・最小	a: 2次関数に関する平方完成等の基本的な計算ができる。 b: 最大・最小値に関する考察ができる。 c: 最大・最小値が関係するような日常的な課題に、2次関数を使って考察しようとすることができる。	定期テスト	定期テスト プリント	レポート 観察等

	図形の性質	三角形の重心･内心･外心 チェバの定理 メネラウスの定理 円周角 円と直線	a:平面図形の性質や定理について理解し、定理を適切に利用し、線分の比や長さ、角度を求めることができる。 b:平面図形の性質や定理について、論理的に考察することができる。 c:平面図形の性質や定理について積極的に考察しようとする	定期テスト	定期テスト プリント	レポート 観察等
3学期	三角比	三角比 正弦定理･余弦定理 図形の計量	a:正弦定理･余弦定理を用い、三角形の残りの要素を求めることができる。 三角形の面積の求め方について理解し、求めることができる。 b：平面図形や空間図形の計量に活用するために正弦定理･余弦定理の式を多面的に見ることができる c：三角比や正弦定理・余弦定理が有用であること認識し、それらを図形の計量に活用しようとしている。	定期テスト	定期テスト プリント	レポート 観察等
	整数の性質	整数の性質 いろいろな方程式の整数解	a: 約数・倍数の意味を理解し、素因数分解を利用し、最大公約数･最小公倍数を求めることができる。 b: 倍数の判定法を考察することができる。身近な事象について数学的にとらえ、最大公約数・最小公倍数との関係について考察することができる。 c: 身近な事象について、約数・倍数との関連を見つけて考察しようとする。	定期テスト	定期テスト プリント	レポート 観察等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度